

令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第一小学校

学校の教育目標

- ・進んで学び深く考え、行動する子ども
- ・思いやりをもち、助け合う子ども
- ・健康で、ねばり強い子ども

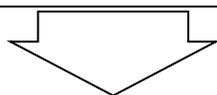
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律と基本的生活習慣の定着

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none">・漢字の書き取りに課題のある児童が多い。・長文読解では、文章の記述をもとに筆者の考えや登場人物の心情や様子を読み取ることが苦手である。	<ul style="list-style-type: none">・漢字の書き取り練習が少ないことと、文章を書くときに漢字を使っていない。・主述の関係や要点、要旨についての理解が低い。
算数	<ul style="list-style-type: none">・基本的な四則計算や立式はできているが、計算に不安をもつ児童が桁数の多い数や、小数、分数の計算を行う際に誤答をしている。・コンパスや分度器、三角定規の使い方の習熟が不十分で作図ができていない。	<ul style="list-style-type: none">・四則計算の習熟が不十分。・十進位取り記数法の確実な定着ができていない。・コンパスや分度器などを使う機会が授業以外に少ない。
社会	<ul style="list-style-type: none">・グラフや図などから情報を読み取り、判断する能力が低い。・農業、水産業、工業について学んだときは理解できているが習熟が図れていないので時間がたつと忘れてしまっている。	<ul style="list-style-type: none">・読み取った情報を友達同士で共有や討論をして深める経験が少ない。・学んだ知識を活用した学習や実生活に使っていない。
理科	<ul style="list-style-type: none">・実験や観察のポイントの理解が不十分で、課題に合わせて実験・観察方法を考えることが苦手な児童が多い。・結果を整理し、論理的にまとめることが苦手な児童がいる。	<ul style="list-style-type: none">・既習事項と結びつけて課題を解決する経験が少ない。・まとめは課題に正対したものであることを十分に理解していない。
体育	<ul style="list-style-type: none">・体力調査の結果から長座体前屈の記録が全国平均を下回っている学年が多い。	<ul style="list-style-type: none">・普段の遊びでの運動経験の差が体力調査の結果の差につながっている。また、個人差が大きい。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	月一スタンダードである学習規律(チャイム着席、学習用具、授業終始のあいさつ、姿勢)を徹底し、全児童が学習の構えを身に付ける。放課後の学習教室(スタディ月一)や夏季休業中に補習教室(サマースクール)を実施し、個別指導を通し、基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。
②授業改善	板書計画やノート指導を徹底し、学習活動、形態を工夫し、問題解決的な学習を各単元に必ず行う。
③教員の指導力	統一した指導スタイル(めあて、見通し、自力解決、比較検討、まとめ)で授業を行う。また、教員の指導力向上のための校内研修を年間10回以上行う。
④家庭との連携	「家庭学習の手引き」を配布し、自学、自習の内容を充実させる。宿題の提出率を9割以上にし、家庭学習の習慣を身に付ける。
⑤体力向上	「マイスクールスポーツ」(水泳・縄跳び・持久走)や、ボルダリングに年間を通じて取り組ませる。それらを通じて持久力や巧みな動きを身に付けるとともに体力の向上に努める。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	学校で統一した持ち物の確認を行い、持ち物への記名と、前日に学習道具を自分で準備する習慣づけをして忘れ物をしないように家庭と協力して指導する。
取組Ⅱ	会議のない放課後に補習教室「スタディ月一」の時間を設定する。現在学習している内容の復習や東京ベーシックドリルなどを中心に担任や算数少人数の個別指導や少人数指導を行い基礎・基本の学力の定着を図る。
取組Ⅲ	授業開始と終了が意識できるようにあいさつの指導をする。聞き方名人「あいいうえお」、話し方名人「かきくけこ」を各教室に掲示し、意識付けと定着を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領や解説、教科書、指導書、以前の実践を参考に、児童の実態に合った授業プランを構成し、児童が意欲的に取り組める授業にする。また、発問や学習形態を踏まえた板書計画を立てたり、ノートを定期的に点検し、自らの思考の流れがわかるようノート指導が定着するようにしたりする。
取組Ⅱ	授業後に構成の見直し、児童の授業中の反応、提出物、テスト等の結果分析を行い、児童に「何が身に付いたか」を振り返る。
取組Ⅲ	児童の学習意欲が高まるような問題の開発、話し合い活動の導入、教材・教具の工夫を行い、年度末には「授業が楽しい」と感じる児童の割合が8割以上になるようにする。

③教員の指導力

取組Ⅰ	年間指導計画を基に単元を見通した授業計画を立て、毎時間のねらい、中心となる学習活動を明確にし、授業実践をする。
取組Ⅱ	発問の工夫や、ノート指導により児童がめあてをもって学習活動を行い、「わかった」「できた」という満足感や達成感を味わわせる。
取組Ⅲ	ベテラン教諭を講師として授業の指導法や、児童理解の方法の研修を行い、児童が充実感を味わう指導が行えるようにする。

④家庭との連携

取組Ⅰ	手紙や連絡帳を通し、学習状況に関する情報を発信し、学習用具の準備、宿題への取り組み等、児童の学習に臨む姿勢を整える。
取組Ⅱ	「家庭学習の手引き」を配布し、「学年×10分+α」を目安に家庭学習への習慣づけを行う。まずは宿題、さらに自学へと取り組む意欲を育てる。
取組Ⅲ	手紙や保護者会、個人面談などを通して児童の様子や、学校での取り組みを保護者に伝える。また、保護者が教員やスクールカウンセラーなどに相談しやすいようにし、児童を共に育てる環境づくりをする。

⑤体力向上

取組Ⅰ	発達段階にあわせた遊びやゲームを通して、運動に親しみ、体の柔らかさや巧みな動きの向上が図れるようにする。
取組Ⅱ	「マイスクールスポーツ」を通じて動きを持続する能力を高められるようにする。
取組Ⅲ	ボルダリングの課題を登ることを通して体力と思考力を身に付け、自分の限界に挑戦したり、課題を克服したりする楽しさを味わう。